

# 施策番号【20】 『みはら元気創造プラン』 施策概要

施策名	国際化の推進	担当課	経営企画課	連絡先	-
施策がめざす三原市の姿	外国人との身近な交流をはじめ、海外との交流が深まっている。				

1 現状・課題	修正
(1) 本市には国際空港である広島空港が所在し、海外都市との教育・文化・経済など様々な交流可能性を有しており、その実現に向けた取組が求められています。	
(2) 本市の外国人住民は、人口の約1.5%、約1,500人に増加し、また、日本を訪れる外国人観光客も近年大幅に増加しており、多文化共生のまちづくりが求められています。	
(3) 社会全体のグローバル化が進展する中、現在、三原市国際化推進協議会と連携し、海外との交流・親善、多文化共生、インバウンド観光等、国際化への対応を進めていますが、今後一層、取組を強化し、国際化の推進を通じた地域活性化を実現することが必要です。	
(4)	
(5)	

2 基本方針	修正
(1) 本市の国際化推進に向けた取組について、三原市国際化推進協議会との連携等を通じて一層強化します。	
(2) 外国人住民が安心して市内で生活できるよう、市民に多文化共生の意識啓発を図るとともに、ボランティア団体等と連携したサポート体制の充実に取り組みます。	
(3) 市内の団体が取り組む教育・文化・スポーツ・経済などの民間の国際交流を支援するとともに、海外都市との友好親善にも取り組み、新たな国際交流機会の創出に努めます。	
(4) 外国人観光客が、本市にも立ち寄る機会を増やすため、求められるニーズへの対応や受入態勢の整備に取り組みます。	
(5)	

3 達成度を測る指標	4 予算事業の状況				
指標名	初期値	現状値	目標値 (H31年度)	予算事業名 (予算額上位15件)	H29当初予算 (千円)
(1) 国際交流ができる機会が充実していると感じる市民の割合	3.6% (H25年度)	3.6% (H25年度)	上昇	国際化推進事業費	2,035
(2)					
(3)					
(4)					
(5)				施策合計 (百万円)	2.0

5 最近の動向 等
<p>&lt;地方自治体と国際化&gt;</p> <p>・自治体の国際化政策は、一部自治体の先導的な事業を除けば、一般的に「国際交流」、「国際協力」、「多文化共生」と政策の軸足を変えながら国（総務省）が指針を示すことで、全国の自治体にその実施を要請するというかたちで進んできました。具体的には、「地方公共団体の国際交流のあり方に関する指針（1987年）」、「国際交流のまちづくりのための指針（1988年）」、「地域国際交流推進大綱に関する指針（1995年）」といった指針を示し、施策の推進を要請していますが、いずれも「都道府県・政令指定都市」に向けたものでした。</p> <p>・市町村レベルでは、「多文化共生推進プラン（2005年）」において、市町村の役割が明記され、計画策定を要請されていますが、政令指定都市を除く市レベルでも、H27年度の調査で計画を策定している自治体は58%にとどまっています。プランを策定する市町村が伸び悩んでいる要因として、「少数の外国人に対応するために計画を策定することは非効率」、「外国人住民の生活の多様化で福祉分野をはじめ、様々な問題・課題が生じている」、「広域対応が必要な中、都道府県の支援・協力体制が不十分」、「言語・文化など高い専門性が求められる中、定期的に人事異動がある職員から人材を育成することの困難性」などが指摘されています。</p> <p>・自治体国際化協会の調査で、国際親善交流の分野での姉妹都市提携数は、2013年時点で、856自治体1,646件で、9年間で560件増加していますが、海外交流事業では2012年度で61団体中24にとどまり、減少傾向にあると指摘されています。国際親善は、一般的に、首長や議員の相互訪問を契機に提携を結ぶケースが多いですが、その後に交流事業として定着している団体は少なくなる傾向がある、といえます。</p> <p>【参考】</p> <p>・「日本再興戦略」改訂2014 -未来への挑戦-（抄）</p> <p>（3）外国人材の活用</p> <p>多様な価値観や経験、技術を持った海外からの人材がもっと日本でその能力を発揮してもらいやすくなるのが重要である。当面の対応策として、管理監督体制の強化を前提に技能実習制度を拡充することとしたほか、建設業及び造船業に従事する技能者の就労を円滑化するための緊急措置を整備することとした。</p>

事業名：国際化推進協議会補助事業



Q1 この仕事は、誰のために、何をしていますか？

この事業は、市内関係団体 11 団体で構成する三原市国際化推進協議会へ補助金を交付し、国際化推進の取組みを進めています。  
協議会では、主に、海外都市との交流・友好親善、多文化共生事業、インバウンド観光についての取組みを行っています。



Q2 この仕事に、私たちの税金がどのように使われていますか？

昨年度の事業費（1,954 千円）の内訳は、海外都市との交流・友好親善に（1,330 千円）、多文化共生事業に（120 千円）、インバウンド観光に（505 千円）となります。



Q3 この仕事が行われることによるメリットは？

こうした取組みを進める中で、海外都市との交流を深め、継続的な友好親善を図ることは、市民の異文化体験の機会創出や、多文化共生の環境づくりなどに効果があると考えています。

また、国際空港や新幹線駅などの交通の拠点性を活かして、外国人誘客に取り組んでいます。



Q4 この仕事はいつから始まり、また、見直しなどを行いましたか？

三原市国際化推進協議会は、平成 24 年度に設立され、現在に至っています。



事業シート（概要説明書）

予算事業名	国際化推進協議会補助				事業開始年度	平成24年度					
上位施策事業名	3-3-2 国際化の推進				担当局・部名	総務企画部					
根拠法令等					担当課・係名	経営企画課・総合企画係					
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				作成責任者	今川 潤					
実施の背景	<p>三原市には国際空港である広島空港が所在し、海外都市との教育・文化・経済など様々な交流の可能性を有しており、その実現に向けた取組みが求められている。</p> <p>また、社会や経済のグローバル化が進むとともに、市内在住の外国人数の増加、外国人観光客の増加しており、多文化共生の推進やインバウンド観光の促進など国際化の取組が急がれている。</p> <p>三原市では、ニュージーランドのパーマストンノース市とトライアスロンさぎしま大会を契機に10年以上にわたる民間交流の実績がある。</p>										
目的 (何のために)	<p>産・学・官・民・医で構成する三原市国際化推進協議会（任意団体）が取組む事業に対して、補助金を交付し、多様な国際交流や外国人住民との多文化共生を推進することにより、市民の国際交流の機会創出やインバウンド観光促進による地域活性化、全ての市民が暮らしやすい環境づくりを目的とした事業を実施する。</p>										
事業概要	対象 (誰・何を対象に)	三原市国際化推進協議会、 市民（外国人を含む）、訪日外国人 ※ 外国人住民数 1,942人（H29.3.31現在）				対象者数（全住民に対する割合） 人（ % ）					
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施									
		<input type="checkbox"/> 業務委託 又は <input type="checkbox"/> 指定管理（委託先又は指定管理者：）									
		<input checked="" type="checkbox"/> 補助金〔直接・間接〕（補助先：三原市国際化推進協議会 実施主体：）									
		<input type="checkbox"/> 貸付（貸付先：） <input type="checkbox"/> その他（）									
事業内容 (手段、手法など)	<p style="text-align: center;">事業内容</p> <p>国際化推進協議会における取組み（H28年度） 1,960千円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国際交流事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外都市へ訪問団派遣（NZパーマストンノース市）※29年度は訪問団受入</li> <li>・海外訪問団受入支援補助（フランスロータリークラブ受入支援）</li> </ul> </li> <li>○多文化共生事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民と市在住外国人の交流イベント（さぎしまアドベンチャーツアー）</li> </ul> </li> <li>○インバウンド観光事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪日外国人団体旅行商品支援</li> <li>・海外情報誌へ観光誘客広告掲載 （4か国語：フランス、イギリス、イタリア、スペイン）</li> </ul> </li> </ul>										
関連事業 (同一目的事業等)	・三原市少年少女海外研修・交流事業（シンガポール）：生涯学習課										
コスト			29年度（予算）		28年度（決算見込み）		27年度（決算）		26年度（決算）		
	事業費合計		2,000千円		1,954千円		1,332千円		1,761千円		
	事業費内訳 (平成28年度分)		<p>三原市国際化推進協議会補助金内訳（H28年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国際交流事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外都市へ訪問団派遣 1,240千円 ※ 一般会計支出 1,872千円</li> <li>・海外訪問団受入支援補助金 90千円</li> </ul> </li> <li>○多文化共生事業（交流イベント） 119千円</li> <li>○インバウンド観光事業 505千円</li> </ul> <p>計1,954千円</p> <p>【参考】H29年度訪問団受入事業費 506千円</p>								
	人件費	担当正職員	1人	6,000千円	0.7人	4,200千円	0.5人	3,000千円	0.5人	3,000千円	
		臨時職員等		千円		千円		千円		千円	
		人件費合計	1人	6,000千円	0.7人	4,200千円	0.5人	3,000千円	0.5人	3,000千円	
	総事業費		8,000千円		6,154千円		4,332千円		4,761千円		
財源内訳		0千円		0千円		0千円		千円			
国県支出金		国県支出金の内容									
地方債		0千円		0千円		0千円		千円			
その他特財		0千円		0千円		0千円		千円			
その他特財の内容											
一般財源		8,000千円		6,154千円		4,332千円		4,761千円			
財源合計		8,000千円		6,154千円		4,332千円		4,761千円			

## 事業シート（概要説明書）

予算事業名		国際化推進協議会補助			事業開始年度	平成24年度	
事業実績	活動実績	【活動指標名】（実績値/目標値）	単位	H28年度	H27年度	H26年度	
		海外都市派遣者数	人	8/	— /	— /	
		市民と市在住外国人の交流イベントの参加者数	人	50/	50/	— /	
		訪日外国人団体旅行支援数	回	0/3	2/3	— /	
	プロモーション	回	4/5	— /	— /		
単位当たりコスト		/					
事業成果	成果目標 （指標設定理由等）	①市民の国際交流機会の創出，外国人住民との交流による異文化体験機会について，より多くの市民に提供する。 ②プロモーションやおもてなし等の誘客促進の取組により，訪日外国人観光客数の増加を図る。					
	成果 （目標達成状況）	【成果指標名】（実績値/目標値）	単位	H28年度	H27年度	H26年度	
		①国際交流ができる機会が充実していると感じる市民の割合	%	3.5/	— /	3.6/	
		②市内に訪れる訪日外国人観光客 ※H28の増加は，エアポートホテル宿泊客の増加とうきしろロビー利用者の数を加えたことによる。	人	33,801/	8,744/	4,109/	
		/	/	/			
事業の自己評価 （今後の事業の方向性、課題等）	<p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の目的に対して，取組むべき内容が整理できていない。</li> <li>・海外都市と交流することへの市民の理解とそれに対する啓発活動が必要。</li> <li>・協議会を構成する団体の連携，役割の見直しが必要。</li> </ul> <p>（方向性）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会として取組むべき内容を整理し，各団体の役割を明確にする。</li> <li>・市民参加型事業や啓発活動をすることで，国際交流に対する理解を深める。</li> <li>・多文化共生に関する市民の理解を把握するため，アンケート，ヒアリング調査を実施する。</li> </ul>						
比較参考値 （他自治体での類似事業の例など）	広島県内の外国籍住民の状況（H28.12末現在）						
特記事項	三原市の外国籍住民の状況（在留資格別上位）（H29.3末現在） 1. 技能実習 41% 2. 永住者 22% 3. 定住者 9%						

委託・指定管理・補助 対象団体シート (概要説明書)

予算事業名	国際化推進協議会補助		事業開始年度	平成24年度
団体名	三原市国際化推進協議会			
団体への支出根拠 (選定経過等、支出先の妥当性)	予算措置により支出			
当該事業の団体における収支状況	収入		支出	
	国からの財政支出金	千円	国際交流事業	1,330 千円
	県からの財政支出金	千円	多文化共生事業	119 千円
	市町村からの財政支出金	1,953 千円	インバウンド観光事業	505 千円
	委託料・指定管理料	千円		千円
	補助金	1,953 千円		千円
	その他	千円		千円
	その他 ( 預金利息等 )	1 千円		千円
総計	1,954 千円	総計	1,954 千円	

※委託料は設計ベースのため、収入と一致しない場合あり。

団体概要	三原市国際化推進協議会の構成団体(11団体) 三原市, 三原市商工会議所, 三原臨空商工会, (一社)三原青年会議所, (一社)三原観光協会, 三原市医師会, 公立大学法人県立広島大学, 学校法人山中学園, 広島空港ビルディング, みはらウィメンズネットワーク, 国際交流ネットワークみはら  協議会には委員のほか, 連絡調整会を置き, 構成団体の担当者で構成している。 連絡調整会では, 協議会に関する連絡調整, 調査研究, 事業の推進の検討等を行うもので, 必要に応じて召集し, 関係機関が参加できる。									
	資本金	0 千円	役員	(単位:人)	常勤	うち (出向/OB)	非常勤	うち (出向/OB)	監事	うち (出向/OB)
	市出資金	0 千円		役員	0	0	3	0	2	0
	出資比率	0 %		職員	0	0	0	0		
団体全体の収支状況	収入		支出							
	国からの財政支出金	千円	事業費	1,954 千円						
	県からの財政支出金	千円	管理費	千円						
	市町村からの財政支出金	1,953 千円	人件費	千円						
	委託料・指定管理料	千円	その他 ( )	千円						
	補助金	1,953 千円	総計	1,954 千円						
	その他	千円								
その他 ( 預金利息等 )	1 千円									
総計	1,954 千円	収支差	0 千円							
特記事項	負債総額: 円 資本総額: 円 利益剰余金(もしくは欠損金): 円									
財務諸表URL										

## 平成 28 年度事業報告について

### 1 会議の開催

本協議会の目的を達成するため、総会、連絡調整会を開催した。

会議名	日時 場所	内容
第 1 回 連絡調整会	平成28年5月10日 議会棟委員会室	平成 28 年度総会の開催について 各団体からの情報提供等
平成 28 年度 総会	平成28年7月21日 議会棟委員会室	平成 27 年度事業報告, 歳入歳出決算について 平成 28 年度事業計画, 歳入歳出予算について

### 2 事業実績

#### (1) 海外都市との交流・友好親善に関する事業

海外都市との交流を深め、継続的な友好親善を図るための調査研究 等を実施した。

ア ニュージーランド パーマストンノース市

訪問団の派遣 平成 28 年 11 月 18 日～23 日

※別紙資料 1

イ 中華民国（台湾） 桃園市

ウ インドネシア トバ・サモール県

在日インドネシア大使館臨時代理大使の市長表敬訪問

※別紙資料 2

エ フランス パリロータリークラブ

海外訪問団受入支援補助

※別紙資料 3

#### (2) 国際理解, 啓発, 多文化共生に関する事業

ア 市内在住外国人を対象にしたミハラアドベンチャーツアーの開催

※別紙資料 4

### (3) インバウンド（訪日外国人）観光事業

交通の拠点、県内を代表する観光地の中間や観光素材（瀬戸内海、自然探訪、食、伝統）等、本市の環境を活かした観光誘客を図るため、県と連携して、次に掲げる事業を実施した。

#### ア 誘客促進

訪日外国人団体旅行商品支援事業（助成金）

##### ① 助成の要件

区 分	内 容
人 数	10 名以上（添乗員も含む。）
路 線	広島空港を発着する航空便を片道又は往復利用すること
宿 泊	三原市内の宿泊施設に 1 泊以上すること
その他	前記宿泊施設を除く三原市内の飲食施設及び観光施設（観光地）を利用すること

##### ② 助成金の額

区 分	内 容
助成金額	1 人につき 1,500 円

※台湾 1 社から 2 ツアーの支援申請

※いずれも催行人数に充たず、催行中止

#### イ プロモーション

情報誌「ZOOM JAPON」観光誘致広告掲載（4 か国語）

同誌の「完全保存版・広島大特集号」が発行されることにあわせて掲載

〔内訳	フランス語	70,000 部
	イギリス 英語	35,000 部
	イタリア語	35,000 部
	スペイン語	50,000 部

※別紙資料 5

#### ウ セールス活動

台湾 県 台湾訪日旅行取扱業社 社長等懇親会（台北市）

→台風襲来のため中止

## ニュージーランド パーマストン・ノース市訪問について（報告）

## 1 趣旨

今回、本市の新たな国際交流機会の創出のため、トライアスロンさぎしま大会を契機に民間交流が行われているニュージーランドのパーマストン・ノース市を訪問した。

平成28年11月21日（月）の市役所訪問では、両市の相互理解を深めるとともに、親書にて確認された「スポーツ」、「文化」、「教育」などの分野の交流について意見交換をした。

## 2 経過

時 期	内 容
平成17年	民間交流開始
平成26年9月	広島ニュージーランド友好協会を通じて親書の送付
平成27年10月	ニュージーランド姉妹都市協会モリス会長に親書伝達を依頼
平成28年1月	パーマストン・ノース市長からの親書を受領
平成28年7月	パーマストン・ノース市長から市訪問の招待状を受領
平成28年11月	駐日ニュージーランド大使（東京） 表敬訪問
平成28年11月	パーマストン・ノース市 訪問

## 3 意見交換の内容

## (1) 主な出席者

三原市側	パーマストン・ノース市側
<b>【市】</b> 天満市長 山口経営企画担当部長 中川経営企画課係長 <b>【市議会】</b> 梅本議長 中川議会事務局係長 <b>【広島ニュージーランド友好協会】</b> 津野瀬会長，小谷理事 <b>【さぎしまトライアスロン】</b> 藤村親善大使	<b>【市】</b> グラント・スミス市長 タンギ・ウティケレ副市長 シェリル・ブライアント都市開発部長 トニー・グレイス国際課長 <b>【市議会】</b> エイドリアン・ブロード経済開発委員長 <b>【IPU大学】</b> ウェイン・エドワーズ学長 <b>【セント・ピーターズ・カレッジ】</b> デービッド・オリビエ校長

※ニュージーランドでは、市長＝市議会議長です。

## (2) 今後交流を検討する分野として出た意見

- ・スポーツ及び文化的交流
- ・国際的な教育の連携
- ・危機管理対策

### (3) 当面の取組

- ・ グラント・スミス市長を「瀬戸内三原築城450年」事業期間中に三原市へ招待する。
- ・ パーマストン・ノース市内の公園へ建設予定の日本式庭園について、三原市から助言する。
- ・ 人的交流を含めた具体的な事業の可能性について、相互に検討を進める。

## 4 その他の訪問先

### (1) ST PETERS COLLEGE (セイント・ピーターズ・カレッジ)

- ・ カトリック系私立学校 (1904年創立) の視察。
- ・ 日本における中学2年生から高校3年生までの5学年を教育する学校。
- ・ 日本語教室を授業として取り入れ、日本からの留学生も受け入れている。

### (2) IPU (アイピーユー : Institute of the Pacific United New Zealand の略)

- ・ 私立大学 (1990年創立) の視察。
- ・ 世界20カ国から約400人の学生が集う四年制大学。
- ・ 全体の30%が日本人学生で、IPU環太平洋大学 (岡山市) は姉妹校になる。
- ・ スカイプ交流、英語教師の短期研修、三原市内の高校生のオープンキャンパス参加など、国際的な教育の連携について提案を受ける。

### (3) UCOL (ユーコール : Universal College of Learning の略)

- ・ 国立高等専門教育機関 (1907年創立) の視察。
- ・ 世界72カ国から学生が集う国際色豊かな学校で、日本人学生も在籍する。
- ・ 情報技術、ビジネス、健康科学、芸術デザイン、職工・技術、調理師養成、美容、英語、農学と多岐にわたるコースを、3ヶ月から3年間の期間で学ぶ専門学校。



左端から、エイドリアン経済開発委員長、梅本市議会議長、グラント・スミス市長、天満市長、タンギ副市長

## 駐日インドネシア共和国臨時代理大使の市長表敬訪問について

## 1 経緯

平成 29 年 1 月

駐日インドネシア大使館ベン臨時代理大使から姉妹都市等の交流を提案する内容の手紙が届く。

手紙の主な内容

- ・ 三原市とトバ・サモシール県（バリゲ市）との「姉妹都市提携」を提案する。
- ・ トバ・サモシール県に対して、今年中に広島県と三原市を訪問するように促した。
- ・ 三原市とトバ・サモシール県（バリゲ市）との協力の可能性について、三原市の積極的な対応を期待する。

平成 29 年 2 月

ベン臨時代理大使の表敬訪問を受ける。

表敬訪問の概要

日 時 平成 29 年 2 月 15 日（水）10:10～10:40

訪問者 ①駐日インドネシア共和国臨時代理大使 ベン ペルカサ トラジャト公使

1998～2001 年

広島大学大学院国際協力研究科博士課程在籍

1998 年 6 月～1999 年 3 月

広島県海外技術研修員として広島国際協力センター、  
広島ガス(株)で研修

2016 年 12 月 3 日～

臨時代理大使

②同夫人 ハルウィタ サリ

③一等書記官 リッキー エカ フィルガナ イフサン

④大使秘書（通訳）マサオミ タナカ

⑤県立広島大学保健福祉学部看護学科准教授 狩谷 明美

内 容 ベン代理大使は、平成 30 年が日本とインドネシアの国交樹立 60 周年の節目の年になるので、それまでに、三原市とトバ・サモシール県（バリゲ市）が姉妹都市提携を結び、何らかのイベントを実施したい意向を示された。

天満市長は、まずはお互い理解を深め、具体的な交流の可能性について検討する旨をお伝えした。

## 2 今後の取組み

- ・ トバ・サモシール県からの訪問（予定）
- ・ 交流の検討

## 海外訪問団受入支援補助（フランス（パリ）ロータリークラブ）実績

## 1 事業概要

（交流で）来三する訪問団に対する三原ロータリークラブの「おもてなし」について、民間との国際交流の推進を図るため、三原ならではの体験提供を支援する。

## 2 日程等

(1) 日 時 平成 28 年 5 月 16 日(月)・17 日(火)

(2) 団 体 アルジャントイユ

                  コルメイユ=ザン=パリジ     ロータリークラブ     20 名

(3) 行 程 5 月 16 日(月)

                  9:00 ホテルサンルート広島発           【広島市中区】

                  10:30 阪井養魚場見学                   【大和町】

                  12:00 野の花（昼食 そば）

                  14:00 佛通寺（座禅体験）           【高坂町】

                  16:20 広島エアポートホテル       【本郷町】

                  18:00 交流会（神楽等）

5 月 17 日(火)

                  9:00 広島エアポートホテル発       【本郷町】

                  9:40 酔心山根本店（見学）       【東町】

                  10:40 うきしろロビー（三原だるま面相書き）   【城町】

                  12:00 三原国際ホテル着

                  12:30 三原ロータリークラブ例会出席

                  13:40 三原国際ホテル発     倉敷へ

## 3 支援内容

(1) 三原ならではの体験に係る費用の支援

○やっさ踊り

    やっさ振興協議会           50,000 円

○三原だるま面相書き

    だるま 600 円×20 体=12,000 円

    うきしろロビー使用料     1,080 円

○座禅体験（佛通寺）

    一人 1,000 円×20 名=20,000 円

支出合計 89,080 円

## 多文化共生事業〔ミハラアドベンチャーツアー〕事業報告

## 1 目的

市内に在住の外国人と市民を対象に、三原の文化に触れてもらいながら異文化交流を深め、多文化共生のまちづくりを推進する。

また、参加者の方には、自身が三原の良さを知るだけでなく、周囲や母国に向けた三原PRの発信者となってもらうことも期待する。

## 2 内容

佐木島の自然海岸を散策し、雄大な潮の流れを眺めながら海の自然を満喫できるコースのウォーキングのほか、佐木島の特産品であるみかんの収穫体験を通して市民との交流を図る。

## 3 行程等

(1) 日 時 平成28年11月23日(水・祝) 8:30~15:30

(2) 行 程 8:30 三原港集合⇒ 9:00 三原港発 フェリー 9:25 鷺港着⇒ 開会 ⇒ 9:45  
ウォーキング(港の丘公園-小浦神社-大野浦) ⇒ 10:20 大野浦海岸  
(砂浜ウォーク&昼食) ⇒ 12:00 うずしおライン 長浜海岸(貝殻拾い) ⇒  
13:15 みかん園 みかん狩り ⇒ 14:15 県道経由 ⇒ 14:45 鷺港着  
(やっさ踊りなど) ⇒ 鷺港発 15:15 高速船 15:28 三原港着 解散

(3) 参加者 計 50 名

・三原市内に在住の外国人 31 名

(バングラデシュ 11 名, 中国 7 名, フィリピン 6 名, ベトナム 2 名, ミャンマー 1 名,  
シンガポール 1 名, オーストラリア 1 名, 香港 1 名, ジャマイカ 1 名,)

・鷺浦小学校 11 名(児童 8 名, 職員 3 名)

・市民参加者 8 名

(4) 参加費 1,020 円(三原港=鷺港の船代)

## 4 参加者の感想等(アンケートより一部抜粋)

- \* 佐木島はとてもきれいなところでした。これから、ぜひ友達と遊びに来たいです。
- \* はじめて佐木島に来ました。楽しい時間を過ごせて、新しい友達とも出会うことができました。
- \* 子供たちのガイドが素晴らしかったです。
- \* とても素敵な島なので、周りの友達にも紹介したいと思います。



大野浦海岸

## 広島県内の外国籍県民の状況（平成28(2016)年12月末現在）

H29. 5. 23

## 1) 外国籍県民数順

順位	市町名	平成28年12月 末現在 外国籍県民数	平成29年1月1日 現在推計人口	市町人口 に占める割合
1	広島市	17,438	1,197,262	1.46%
2	福山市	8,020	464,299	1.73%
3	東広島市	5,892	193,636	3.04%
4	呉市	3,188	225,875	1.41%
5	尾道市	2,483	137,041	1.81%
6	三原市	1,988	95,073	2.09%
7	廿日市市	1,173	114,948	1.02%
8	海田町	794	29,032	2.73%
9	江田島市	759	23,767	3.19%
10	府中町	648	51,128	1.27%
11	安芸高田市	635	29,005	2.19%
12	三次市	517	52,892	0.98%
13	府中市	457	39,365	1.16%
14	北広島町	374	18,730	2.00%
15	庄原市	363	36,241	1.00%
16	大竹市	323	27,640	1.17%
17	世羅町	264	16,010	1.65%
18	竹原市	203	25,878	0.78%
19	熊野町	168	23,486	0.72%
20	坂町	125	12,778	0.98%
21	大崎上島町	124	7,799	1.59%
22	神石高原町	85	8,928	0.95%
23	安芸太田町	26	6,277	0.41%
	合計	46,047	2,837,090	1.62%

## 2) 人口比順

順位	市町名	平成28年12月 末現在 外国籍県民数	平成29年1月1日 現在推計人口	市町人口 に占める割合
1	江田島市	759	23,767	3.19%
2	東広島市	5,892	193,636	3.04%
3	海田町	794	29,032	2.73%
4	安芸高田市	635	29,005	2.19%
5	三原市	1,988	95,073	2.09%
6	北広島町	374	18,730	2.00%
7	尾道市	2,483	137,041	1.81%
8	福山市	8,020	464,299	1.73%
9	世羅町	264	16,010	1.65%
10	大崎上島町	124	7,799	1.59%
11	広島市	17,438	1,197,262	1.46%
12	呉市	3,188	225,875	1.41%
13	府中町	648	51,128	1.27%
14	大竹市	323	27,640	1.17%
15	府中市	457	39,365	1.16%
16	廿日市市	1,173	114,948	1.02%
17	庄原市	363	36,241	1.00%
18	三次市	517	52,892	0.98%
18	坂町	125	12,778	0.98%
20	神石高原町	85	8,928	0.95%
21	竹原市	203	25,878	0.78%
22	熊野町	168	23,486	0.72%
23	安芸太田町	26	6,277	0.41%
	合計	46,047	2,837,090	1.62%

※1 在留外国人数は、法務省「在留外国人統計」第7表(2016年12月)による⇒2017.3.31公表

※2 人口は、広島県「人口移動統計調査」推計人口第2表(平成29年1月1日現在の推計人口)による